

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

5年 総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・茨城県ユニセフ協会によるワークショップを体験することで、ユニセフの活動やSDGsなどについての理解を深める。
- ・貧困や戦争などが原因で起きている人権問題、特に児童労働や未就学、病気などについて、活動を通してその問題点に気付く。
- ・話し合いを通して、問題解決に向けた手立てを考えるきっかけとする。

実施した内容

- ・ユニセフの活動の様子を紹介する映像を視聴する。
- ・谷川俊太郎作「その子」（絵本）の読み聞かせを聞く。
- ・物語の中で描かれていた児童労働や未就学、衛生面や健康面などの問題を解決するために自分たちにできることをグループに分かれて話し合い、結果を全体で共有する。
- ・資料等の説明を聞き、実物モデルを見たり、触ったり、実際に使ったりする。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ワークショップ型の活動とすることで、多様な意見が出るようにした。
- ・意見は付箋に書いて掲示し、どんな意見でも認め合う雰囲気の中で活動した。

(地域や関係機関との連携)

- ・茨城県ユニセフ協会のスタッフを講師として招き、絵本の読み聞かせやグループ活動、資料の説明などの際に、実際の写真や模型を用いるようにした。

他教科との
関連

- ・道徳における命の大切さについて考える活動の中で、本活動を想起させることで、病気によって失われてしまう命について関連させながら考えることができた。

事業成果

- ・知識的側面：世界に存在する子どもの人権問題について知ることができた。
- ・価値・態度的側面：自分にできることを考え、実践していこうとする態度が育ってきた。
- ・技能的側面：募金への参加や残食の削減、フェアトレード商品の購入など、自分ができることに取り組む様子が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

5年 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・体の成長に伴って心も成長していることを理解する。
- ・男女相互の理解を深め、人格を認め合うことにより、よりよい人間関係をつくろうとする心情や態度を育てる。

実施した内容

- ・自分たちの学級に、男女間の冷やかしかや対立がないかどうか考え、ある場合はその原因を考える。
- ・心の働きは、どのように成長していくかを知る。
- ・異性の友達への接し方について自分の考えをまとめ、これから実践したいことを決める。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・二次性徴期に現れる心の変化は、脳の下垂体から分泌されるホルモンの影響であることに触れ、誰にでも起きる可能性があることを理解させる。
- ・具体的な場면을例示し、日常の自分の言動を想起できるようにする。
- ・日頃の言動や本時の学習の反応で、個別指導の必要が認められる児童は継続的に指導する。

他教科との
関連

- ・理科「ヒトのたんじょう」を学習した際、男女の違いはあっても、協力して子供を産み、育てていくことが大切であることに触れ、考えるきっかけとした。

事業成果

- ・知識的側面：思春期の心の働きについて知り、男女の協力の大切さを知ることができた。
- ・価値・態度的側面：男女が仲良く生活するための接し方について考えることができた。
- ・技能的側面：実際に日常生活の中での異性との関わりについて考え、実践していこうとしていた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

4年 総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・地域の様々な人の視点から地域を見つめることで、高齢者の人権に関する課題を見つけ、情報を収集し、自分たちにできることを考えて発信したり、実践したりすることができる。
- ・2分の1成人式により、「働く」ことや「自分らしく生きる」ことが希望や夢をもって生きていくことにつながることに気付き、人のために役立つことを実践しようとする。
- ・高齢者についての理解を進めるとともに、高齢者が住み慣れた地域で生き生きと安心して生活していくために必要なことを考え、実践しようとする。

実施した内容

- ・高齢者の人権問題に関する課題を設定し、学習の計画を立てる。
- ・高齢者の人権問題に関する課題解決に向けて見学したり、インタビューを行ったりする。
- ・見学や体験、取材を通して収集した情報やわかったことなどを整理したり分析したりする。
- ・課題を解決するために、これからどのような活動を行うか考え、活動計画を見直す。
- ・2分の1成人式により、高齢者の人権問題を解決するための活動を実践する。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・コロナ禍のため訪問が困難だったため、電話でのインタビューを行った。実際の老人ホームについて職員から説明を聞き、施設の様子を知ることができた。
- (地域や関係機関との連携)
- ・自分たちが高齢者にできることを考え、自己紹介やリコーダーの発表などをビデオレターにして特別養護老人ホーム「ましこの里」へ送った。

他教科との
関連

- ・道徳で親切、思いやりについて学習した際、本学習と関連させ、高齢者の立場に立って考えることができるようにした。

事業成果

- ・知識的側面：交流を通して、高齢者の生活や思い・願いについて知ることができた。
- ・価値・態度的側面：高齢者に対し、どのように接すればよいか考えることができた。
- ・技能的側面：日常場面で高齢者に優しい言葉をかけたり、手助けしようとしたりする様子が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

4年 総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・地域の様々な人の視点から地域を見つめることで、障害者の人権問題に関する課題を見つけ、情報を収集し、自分たちにできることを考えて発信したり、実践したりすることができる。
- ・2分の1成人式により、「働く」ことや「自分らしく生きる」ことが希望や夢をもって生きていくことにつながることに気付き、人のために役立つことを実践しようとする。
- ・障害者についての理解を進めるとともに、障害の有無にかかわらず、ともに支え合う地域社会を実現するために必要なことを考え、実践しようとする。

実施した内容

- ・障害者の人権問題に関する設定し、学習の計画を立てる。
- ・障害者の人権問題に関する課題解決に向けて見学したり、インタビューを行ったりする。
- ・見学や体験、取材をして収集した情報やわかったことなどを整理したり分析したりする。
- ・課題を解決するために、これからどのような活動を行うか考え、活動計画を見直す。
- ・2分の1成人式により、障害者の人権問題を解決するための活動を実践する。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・車いす、アイマスクなどの体験活動を通して、障害があることの不自由さや生活していく上での工夫について実感できるようにした。
- (地域や関係機関との連携)
- ・益子町社会福祉協議会職員を講師として、体験活動を実施した。

他教科との
関連

- ・道徳で親切、思いやりについて学習した際、教材文に登場する車いすに乗る男性の様子を想像するため、本学習を想起させた。

事業成果

- ・知識的側面：手足や目に障害をもつ人々の生活について、体験を通して具体的に知ることができた。
- ・価値・態度的側面：体が不自由な人に対し、どのように接すればよいか考えることができた。
- ・技能的側面：日常場面で体が不自由な人々をサポートをしようとする様子が見られるようになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年 社会科

目標・人権教育のねらい

- ・ 渋染一揆の目的や経緯について理解する。
- ・ 厳しい差別を受けた人々の思いや願いを考えることができる。
- ・ 差別に苦しみながらも、優れた技術で社会を支えてきた人々や、勇気をもって差別に立ち向かった人々の思いや願い、生き方について考える。

実施した内容

- ・ 資料をもとに、当時の社会情勢を考える。
- ・ 財政に苦しむ岡山藩が人々に出した命令について考える。
- ・ 嘆願書を読んで、厳しく差別されてきた人々の思いや願いについて考える。
- ・ 渋染一揆のその後について知る。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ 身分制度において厳しく差別されてきた人々の功績について取り上げ、厳しい差別の中でも、優れた技術によって社会に貢献してきたことを理解できるようにした。
- ・ 不当な命令の取り下げを求めて、勇気をもって立ち上がった人々の思いや願いを考えることができるようにした。
- ・ 事前に斉藤隆介作「ペロ出しチョンマ」の読み聞かせを行い、一揆を企てた者への処罰の厳しさが実感できるようにした。

他教科との
関連

- ・ 道徳でいじめや人種差別等の問題について考える学習を行った際、本学習を振り返ることで、差別の不当性や被差別者の苦しみにについて考えることができた。

事業成果

- ・ 知識的側面：過去の身分制度がもとで現在まで残る同和問題について知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：差別の不当性に怒り、差別を受ける者に寄り添う態度が育ってきた。
- ・ 技能的側面：差別に向き合い、解消していこうとする様子が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

6年 社会科

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌ民族の歴史や差別について知る。
- ・アイヌの文化に触れ、身近に感じるとともに、私たちの文化とアイヌの文化両方を大切にしていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・アイヌ語による挨拶を聞き、アイヌ民族についての説明を聞く。
- ・アイヌの文化（地名・衣服・挨拶の仕方など）について知る。
- ・アイヌの道具や服を触ったり、実際に着てみたりする体験を行う。
- ・シャクシャインの戦いや明治政府の政策など、アイヌの歴史や差別について知る。
- ・私たちとアイヌの人たちの違いや共通点を受け入れて生きることの大切さを確認する。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・教科書では短い文章で触れられているだけなので、実際に多くの資料や実際の道具などにより、実感を伴った理解が図れるようにした。

(地域や関係機関との連携)

- ・宇都宮大学地域デザイン科学部若園雄志郎准教授を講師とし、講話等を実施した。その際、アシスタントのボランティアの学生が活動時の補助として児童たちをサポートした。

他教科との
関連

- ・道徳で国際理解や国際親善について考える活動を行った際に、日本とアイヌとの歴史を振り返り、想起させることで、互いの文化を受け入れ、尊重しあうことの大切さについて実感することができた。

事業成果

- ・知識的側面：アイヌの歴史や文化、差別について知ることができた。
- ・価値・態度的側面：アイヌの多様な文化について知り、尊重しようとする態度が身に付いてきた。
- ・技能的側面：様々な文化を受け入れ、大切にしていこうとする様子が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

2年・4年 道徳

目標・人権教育のねらい

- ・他の国の人々とも心が通じ合うことのうれしさに気付き、他の国の人たちと進んで親しくしようとする態度を育てる。
- ・他の国には日本と違う生活や文化があることを知り、それらの意味を理解し、他の国の伝統や文化に関心をもって親しもうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・挿絵や本文をもとに、場面の状況や登場人物の心情を想像する。
- ・他の国の友達と仲良くなるために大切なことや、外国の人たちと関わる上で大切なことなどについて考える。
- ・自分の考えをまとめ、学習を振り返る。学級で共有する。
- ・ALTが日本に来て驚いたことや日本文化の良さについて語る動画を視聴する。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・これまでに学習した同じ価値項目の教材を示すことで、振り返り、学びを生かした学習活動が展開できるようにした。
 - ・登場人物の立場に立つことで、自分ごととして課題を捉え、思考を深めることができた。
- (地域や関係機関との連携)
- ・白鷗大学非常勤講師中山和彦先生による2年生と4年生への示範授業を参観し、講話等により指導を受けた。また、これをもとに4年生で授業実践を行った。

他教科との
関連

- ・音楽科で外国の音楽について学習した際、本学習を想起させることで、それぞれの文化の良さを受け入れていこうとする心情を育てる一助とした。(2年)
- ・国語で和と洋の文化について学習する際、本時の学習を想起させることでよりそれぞれの文化を大切にしていこうとする心情を育てる一助とした。(4年)

事業成果

- ・知識的側面：他の国には、日本と違う生活習慣や文化があることを知り、その違いから生じる問題があることを知ることができた。
- ・価値・態度的側面：他の国の伝統や文化に関心をもって親しもうとする態度が育ってきた。
- ・技能的側面：相手の立場に立って物事を考える姿が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

3年 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットを使う上で守らなければならない決まりを理解し、インターネットの適切な活用方法を理解する。
- ・相手を傷つけたり、迷惑をかけたりしないよう考えながらインターネットを使おうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・学習計画を知る。アンケート調査をする。(事前：朝の会)
- ・インターネット上のやりとりで、褒めたつもりなのに怒らせてしまった事例について理由を考える。(本時)
- ・インターネットでの伝え方について話し合い、自分が実践していくことを考える。(本時)
- ・継続して自己評価を行い、必要に応じてめあての見直しを行う。(事後：帰りの会)

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・情報発信者、受信者双方の立場に立って考えるようにすることで、共感的に理解できるようにした。
 - ・実践カードを活用し、継続して自己評価を行ったり、必要に応じてめあての見直しを行ったりできるようにした。

他教科との
関連

- ・国語で相手によりよく伝えるための話し方や文章の書き方を学習した際に、本学習を想起させ、相手に伝わるような言葉選びの大切さについて考えることができた。

事業成果

- ・知識的側面：ネット上でも現実同様に相手のことを考えることが大切なことに気付いた。
- ・価値・態度的側面：気をつけて話したり、聞いたりしようとする態度が身に付いてきた
- ・技能的側面：誤解がないよう気をつけて話したり、よく聞いて理解しようとしたりする様子が見られた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業

＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・
指定都市名

栃木県

学校名

益子町 益子小学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・ 人権週間に合わせて集会（ミニ・フィルムフォーラム）を行うことで、豊かな人間性や自尊感情を育てる。
- ・ 性的マイノリティについて考え、差別のないよりよい人間関係を醸成することに努める態度を育てる。

実施した内容

- ・ 自分が好きな色について考える。
- ・ 絵本「ピンクはおとこのこのいろ」読み聞かせのビデオを視聴、または担任による同絵本の読み聞かせを行う。
- ・ 好きな色について、読み聞かせをにより気付いたことや感想、これからの自分についてなど、テーマを絞って話し合う。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ フィルムフォーラムとすることで、コロナ禍でも大人数が集まることなく、学級ごと、都合のよい時間に集会が行えるようにした。
- ・ 色の好みという子どもたちにとって身近なテーマを設定し、自分事として考えることができるようにした。
- ・ 担当教員（男性）はピンク色が好きであることを伝え、安心して好きな色を選べるようにした。

他教科との
関連

- ・ 5・6年の学級活動で男女の協力について考えた際、ジェンダーにとらわれずに自分の良さを発揮することが大切であることも紹介し、多様な性のあり方や考え方に触れられるようにした。

事業成果

- ・ 知識的側面：様々な考えをもつ人々と暮らしていることを知ることができた。また、性的マイノリティに関わる人権問題について知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：自分とは異なる考えを受け入れる態度が育ってきた。
- ・ 技能的側面：自分とは違う意見をからかたりにせず受け入れようとする様子が見られた。